

「部屋の中から天体観望」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私の北軽井沢の山荘は、十数年前に中古で購入したものだ。古くてボロいが、その後裏の土地を購入し、敷地だけは約 400 坪と非常に広い。(土地の値段は坪単価何と 1000 円!) 何よりもすばらしいのは、敷地から星が非常によく見えることだ。



山荘はカラマツの森にぐるりと囲まれている。しかし、天頂付近と南の空は森が途切れているので、星がよく見える。特に空の澄んだ冬が美しい。



屋外は、時に氷点下 20°C 近くまで下がるが、屋内からでも星はよく見える。私は窓を開けて、石油ストーブを自分に向けて、何時間も星を眺めている。



カラマツの樹間に、冬の大三角がよく見える。



子午線を通過したオリオン座が、カラマツの梢に消えようとしている。じっと見ていると、日収運動で恒星が動いているのがわかる。すぐそばにある地上の樹と、何百光年も離れた深宇宙の星々・・・「人はなぜ宇宙の中にいるのか」という、哲学的な思いが、何度も頭の中を通り過ぎていった。



(2 ページ目に拡大写真)

